

「対話的な学び」の視点の充実に向けて（社会科）

1 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、大切なこと

- 問題解決の見通しをもつこと（小学校）
- 社会的事象の見方・考え方を働かせ、事象の特色や意味などを考え、概念などに関する知識を獲得すること（小学校）
- 分野の特質に応じた見方、考え方を働かせ、社会的事象の意味や意義などを考察し、概念などに関する知識を獲得したり、社会との関わりを意識した課題を追究したり解決したりする活動の充実を図ること（中学校）
- 学習の過程や成果を振り返り、学んだことを活用すること（小学校）

（小学校学習指導要領解説 社会編 H29 中学校学習指導要領解説 社会編 H29 より）

（※下線は加筆）



「主体的・対話的で深い学び」の実現には、学習の問題(課題)を追究・解決する活動の充実を図る必要がありますね。

問題（課題）解決的な学習では、「問い」をもとに学習過程を工夫し、「対話的な学び」の視点を充実させることが大切です。



しかし、新型コロナウイルス感染症対策等で学習活動が制限される中、「対話」って、具体的にどんな活動ができるのだろうか？

～学習活動例～

- ① 子ども同士の対話
- ② 教師と子どもの対話
- ③ ゲストティーチャー等、外部の人との対話
- ④ 歴史上の人物、先哲等との自己内対話



「対面で話す」活動のみが、「対話」ではないですね。

こうした活動を通して、「対話的な学び」の実現に向けた授業改善を進めることが大切です。



「対話的な学び」の実現に向けたポイントって何だろう？

☆「対話的な学び」の実現に向けたポイント ※（ ）内は中学校

- 学習過程を通じた様々な場面で、児童相互の話合いや討論（生徒同士の協働）などの活動を一層充実させる。
- 実社会で働く人々から話を聞く活動（学習の内容に関係する専門家などとの対話）についても、一層の充実が求められる。

（小学校学習指導要領解説 社会編 H29 中学校学習指導要領解説 社会編 H29 より）

個々の児童生徒が多様な視点を身に付け、社会的事象の特色や意味などを多角的に考えられるようにすることが大切です。

では次に、学習過程に沿った「対話的な学び」の視点の充実について考えてみましょう。



2 学習過程に沿った「対話的な学び」の視点の充実

※ 活動が制限される中で、工夫できそうな活動例

(1) 学習問題（課題）を把握する（つかむ）

- ① 社会的事象に対し、気付きや疑問を出し合う。（資料を通した自己内対話、教師と子どもとの対話）



写真や図表等の資料を用意し、一人一人に気付きや疑問等を持たせられるようにしましょう。子どもたちのつぶやきを教師が受け止めることが大切です。
（「えっ、そんなに?」「すごい!」「なんか、おかしいぞ!」「ひどいな!」など）
「なぜ、～なのだろう。」と疑問を感じられるよう、相反する事実を示したり、思考を促すような資料を用意したりすることで、子どもたちの学習意欲は高まりますね。「教師の教えるべきこと」を「子どもの学びたいこと」に転化させることが大切です。

- ② 学習問題（課題）を設定する。（資料を通した自己内対話、教師と子どもとの対話）



まず、出された問いを整理しましょう。共通の学習問題（課題）は、教師と子どもたちのやり取りの中で合意形成し、設定されることが大切です。
そのためには、まず一人一人が問いを持てるよう、教材の提示の仕方や発問を工夫しましょう。

※一人一人の考えや発言をつないで学習問題（課題）を設定し、学級全体で共有しましょう。
例えば… ○ 一人一人の意見や考えを丁寧に受け止め、板書する。
○ 気付きや疑問を付箋紙等に書かせ、それを拡大した資料に貼る。
○ 子どもの考えが書かれたノートを、書画カメラを使って拡大する。
などの工夫ができますね。

- ③ 学習問題（課題）に対する予想や仮説を立て、追究方法を考える。

(2) 学習問題（課題）を追究する（調べる）

- ① 学習計画を立てる。

- ② 必要な情報を収集する。（地域の人、ゲストティーチャー等との対話）

※実際に地域に出向くことや、ゲストティーチャーに来ていただくことが難しい場合には、オンラインでインタビューをしたり、事前に教師が訪問してビデオメッセージをお願いしたりするなどの工夫ができますね。

- ③ 集めた情報から必要なものを選択し、自分の考えをまとめる。



「分かること(事実)」と「考えたこと(考え)」をしっかりと区別してまとめさせましょう。④の「子ども同士の対話」を充実させるために、まずは自分の考えをしっかりと持たせることが大切です。

- ④ 社会的事象の特色や相互の関連、意味を考える。（子ども同士の対話）

※互いの考え（自分の考えと他者の考え）を比較する場面を設定しましょう。

例えば… ○ ノートやワークシートをグループ内で回し、自分の意見を付け加える。
○ ノートやワークシートを持って教室内を動き、友達と交換して読み合う。自席に戻り、自分の意見を見直して意見を付け加えたり、修正したりする。
○ ホワイトボードや画用紙にグループの考えを書き、黒板に貼る。
などの工夫ができますね。

(3) 学習問題（課題）を解決する（まとめる）

- ① 学習問題（課題）を振り返って、結論をまとめる。（子ども同士の対話）



学習問題（課題）に対し、「つまり何が分かったのか。」を整理させましょう。「なぜ〇〇が必要なのだろう。」という学習問題（課題）であれば、「〇〇が必要な理由は～からです。」などと、自分の言葉でまとめさせることが大切です。一人一人のまとめを基に、本時の学習問題（課題）に対する結論を学級全体で考えることができるよう、教師がコーディネートしましょう。

また、社会科では、重要な語句を多く学びますが、語句の意味を考えさせたり、既習内容と結び付けて取り上げたりするなど、子どもたちの思考を促す工夫をしましょう。それらの語句をキーワードとして提示してまとめさせる方法もありますが、語句の意味を確認してからまとめさせることで、さらに学びが深まりますね。

※結論について、子ども同士で確認し合う時間を設定しましょう。対面で話すことが難しい場合は、書いたノートを交換し合ったり、ノートを机の上に置いて移動し、友達
のノートを確認したりするなどの工夫ができますね。

(4) 自分の学習を考察する（振り返る）

- ① 学習問題（課題）についての予想や仮説と、まとめを比較するなどして、自分の学びを説明したり、評価したりする。



「授業で何ができるようになったのか。」などを実感できるよう、示したねらいを基に、振り返りの場を設定しましょう。

「分かったことを〇字以内で書きましょう。」「決められた用語を用いて、学んだことを説明しましょう。」など、教師の働きかけが大切です。

（R2下都賀地区学校教育の重点 ダイジェスト版 より）

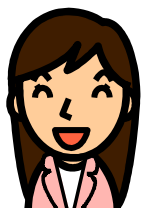
課題把握の場面で立てた予想や仮説と、課題解決の場面でまとめた自分の考えを比較することは、課題解決までの学習過程を振り返るとともに、考えの深まりを実感することにつながります。

次時の学習へ

- ① 新たな疑問（問い）を見いだす。



次時につながる資料を提示し、次の課題をつかませます。新たな問いを生むことが、思考して問い続ける子どもの姿につながります。



こういう状況だからこそ…

☆子どもたちが「楽しい」と感じられる授業づくりを工夫しましょう。

○ 社会的事象についての特色を概念的に理解させるため、単元の初めに子どもの知的好奇心に訴えるような、単元を貫く学習問題（課題）をしっかりとつかませましょう。

○ 比較、分類、関連付け、総合などの方法を通して、様々な知識を結び付けて知識の概念化を図りましょう。身近な生活場面を基にした発問の工夫や子どもの興味・関心を高める資料の提示等が効果的です。